『サマーヨーガの聚会儀軌』について
―― 聚輪儀軌和訳研究 ――

静　春樹

1．解　題

筆者はこれまでインド密教の無上瑜伽階梯にオリジナルな宗教的実践としての集会 melā を、特にその典型例であるガナチャクラ gaṇacakra（以下、聚輪と略）を中心に研究してきた。それと平行して現在に残されている無上瑜伽階梯の文献から重要な聚輪儀軌を選び出し和訳研究を続けてきた。本稿もその和訳研究の一環に位置づけられるものである。本稿で取り上げる『一切仏平等和合聚儀軌』Sarvabuddhasamayogagaṇavidhi は、後述するように内容的にまさしく聚輪儀軌 gaṇacakravidhi であるにも拘わらず異なった gaṇavidhi の名称を与えられている文献である。そして題名からも明らかなように『サマーヨーガ』（Samayoga-uttaratantra）に基づいて作成された聚輪儀軌である。そこで先ず、『サマーヨーガ』について簡単に触れておきたい。

『サマーヨーガ』の略称で知られる『一切仏平等瑜伽荼枳尼網のサンヴァラと名づける続タントラ』（Toh 366）は般若母タントラの成立を画するとされる仏教タントリズムの重要な文献である。先ず『サマーヨーガ』文献には mūlatantra が存在せず、この uttaratantra が mūlatantra の位置を占めている珍しい例であることが注目される。現在までサンスクリット写本は発見されていない[(1)]。敦煌から同タントラの断片が発見されていること[(2)]から吐蕃時代に既にチベットに伝来し翻訳されていたことが確定される。ここから『サマーヨーガ』のインドにおける成立・流通の年代が近似的に推定でき、母タントラ成立史の絶対年代を含めた事情の解明に迫ることが出来る。また『金剛頂経』系統の瑜伽部密教を唐にもたらした不空三蔵（705～774、746帰唐）の手になる『十八会指帰』（大正No.869）に

説かれる『金剛頂経』第九会『一切仏集会拏吉尼戒網瑜伽』が『サマーヨーガ』と深い関連をもつことが先学の研究によって明らかになっている。[3] 私見でも短い第九会の記述の末尾に見られる文言「あわせて五部の中に歌讃舞儀を説く」[4]は、数あるタントラの中でもまさに『サマーヨーガ』に相応しい性格規定であると思われる。そうであるとするならば田中（1997：71）が述べるように、「これが後のインドで爆発的に発展する母タントラについての、歴史的に最も早い言及」となるであろう。曼荼羅の図像学は言うまでもなく、[5] 大楽思想・〈非勤苦性〉の教説・解脱の手段としての歌舞飲食など、『サマーヨーガ』は遡れば『理趣広経』に、下れば『ヘーヴァジュラ二儀軌』（Hevajra-tantra dvikalpa）や「チャクラサンヴァラ」（Cakrasaṃvara）系の諸タントラと直接的な思想的連続性をもつことがこのタントラを母タントラの本源に位置するものとしている。田中（1997：71）が指摘する如く、『サマーヨーガ』が『サンヴァラ』の名で引用されている文献がいくつもあることから、引用関係は文献相互間の chronology の確定に一定の貢献をするものと期待できる。[6] 最後にこれは筆者の最近の研究からの発言であるが、聖者流のアールヤデーヴァ（Āryadeva）が『行合集灯』（Caryāmelāpakapradīpa）の中で〈行〉の体系を説くに際して、戯論・無戯論・極無戯論からなる〈行〉の三カテゴリーの中で、戯論の行の所依としては、それ以後に展開した母タントラの他の経典ではなく、まさしくこの『サマーヨーガ』に全面的に依っていること[7]に注意を促したい。

さて『サマーヨーガ』自体の検討は脇に置き本論に入って、いわゆる『サマーヨーガ』文献群に属する当『一切仏平等和合聚儀軌』についてであるが、作者は仏教タントリズムにおける伝説的人物である「大阿闍梨にして〔ウディヤーナ国の〕王なるインドラブーティ」となっている。[8] 同じく『サマーヨーガ』文献群に属するテキストの一つに Toh 1663 Śrīsarvabuddhasamayogatantra nāma pañjikā があるがこの作者はインドラブーティ（Indrabhūti）と記されている。「インドラブーティ」の名は、『サマーヨーガ』の戯論の行との関連で『五次第』（Pañca-krama）の註釈書で paṇḍita Parahitarakṣita による Pañcakrama-Ṭippaṇī においても現れる。[9] また戯論の行との関連で『行合集灯』第九章の末尾にもインドラブーティへの言及が現れる。[10] 筆者は現時点でこうしたインドラブーティと当儀軌の作者との関係を明らかにし得ていない。

当儀軌の訳者として奥書に載せられる「インドの規範師 Ānandagarbha」であるが、この人物が瑜伽タントラの教義と修法に善巧であったことで知られる、そ

して８～９世紀に活躍し22の著作を西蔵大蔵経に残す、かのアーナンダガルバとどのような関係にあるか、現時点では筆者には不明である。

ここで当儀軌の内容の検討に移りたい。先ず構成についてであるが、当儀軌は三つの部分に分けて考察することができる。文頭より「〔これまでは〕聚会の勇者の饗宴より阿闍梨の行為の次第である。」までの部分は『サマーヨーガ』第六章の関連箇所を引用し、儀軌の作者がそれを敷衍して、所作を中心にした聚輪儀軌を述べる体裁をとっている。つぎの〔曼荼羅成就〕から「金剛薩埵の百字真言」までで『サマーヨーガ』に独自な、導師となる金剛阿闍梨の観想および参会者の祈願が説かれている。「百字真言」の次からが施食（bali）を内容とする部分であって、儀軌は最後に定型どおりに還着の祈念で結ばれている。

さて当儀軌の名称は「聚儀軌」gaṇavidhi であって、「聚輪儀軌」gaṇa-cakravidhi ではないが、内容は間違いなく聚輪儀軌としてのいくつかの必要条件を満たしている。それを所作を中心において聚輪儀軌を述べた最初の部分について見ていきたい。

bsod nams ye shes tshogs rdzogs pas // kun ldan tshogs kyi 'khor lo yin //
福徳と智慧の〔二〕資糧を円満するが故に、すべてを具えた聚輪である。

tshogs kyi dpa' bo'i ston mo las // slob dpon las kyi rim pa'o //
〔これまでは〕聚会の「勇者の饗宴」より阿闍梨の行為の次第である。

このように当儀軌は自らを聚輪と規定し、また聚輪とは類縁関係にある儀軌である「勇者の饗宴」にも言及している。次にこの部分では、三昧耶を持つ者（仏教タントリスト）とそうでない者とを峻別するために、やって来る参加者を誰何する二人の「門の阿闍梨」（dvārācārya）が集会の入り口に配置され、彼らに対して参加者は許可を求める偈頌を唱える次第が見られる。さらにはカースト制と対峙する仏教徒たちの譲れない思想的立場を宣揚する「三者平等の偈頌」[11]（飲食の偈頌）読誦の作法が見られる。この二種類の偈頌の読誦・作法は他の数多くの聚輪儀軌において見られるものであって、三昧耶の遵守と共食儀礼である聚輪の性格からして集会開催の前提条件とも言える重要な構成要素となっているものである。さらにこの部分で聚輪に不可欠な「酒と肉食と性瑜伽」[12]が説かれていることである。以上の三点からして当儀軌の前半部分が聚輪儀軌であると見ることに

間違いはない。

従ってこの部分については他の多くの聚輪儀軌との間に際だった相違は見られない。聚輪を転じる場所には施主に招かれた男女の瑜伽者がやって来て着座する。そこで金剛阿闍梨は常の通り曼荼羅を作成するのであるが、この箇所ではそれは儀軌が「世間の曼荼羅」と述べている地面に牛糞などを塗った香曼荼羅である。中央の尊格である最勝馬（paramāśva）は後半部分の施食儀礼においても中尊の役を演じることに留意する必要がある。

さて所作を中心とした聚輪儀則の説示に続いて、次が当儀軌のオリジナルにして核となる部分である。先ず金剛阿闍梨が観想によって曼荼羅を成就する。そこで阿闍梨は自身を金剛薩埵として生起し、参会者が『サマーヨーガ』第六章にある偈頌を唱えて「ダーキニー幻網による衆生済度」を金剛薩埵に懇願する次第が説かれる。

以上に続く後半部分は施食 bali 儀礼[13]であって、聚輪儀軌の核となるユニットが終了した後で行われる付帯儀礼としての性格が明らかな部分である。つまり施食儀礼がより大きな儀礼を構成するユニットとして聚会儀礼に組み込まれている。施食儀礼は先ず、儀礼の前半部分で作られた香曼荼羅の主尊として中央に居ます最勝馬を讃歎する。続いてバイラヴァ・大自在天・梵天・帝釈天・マハーデーヴァの集団・八護方神・八大竜王・マハーダーキニー・鬼神八部衆たちなどを招請して、偈頌と共に施食供養と祈願を為すのである。施食が終わって招請した尊格や下級神たちにお帰り願うことは常の如くである。ただ他の聚輪儀軌の多くが付帯儀礼としての施食に簡単に言及するだけなのに対して、当儀軌では一つの纏まりとして施食に多くの記述を当てていることが特徴である。

当儀軌の特徴と言えるものは、前半の聚輪の儀則を述べた部分において、当儀軌が依拠した『サマーヨーガ』に見られる、福田（1974：38）が言う「シンボリックな描写が多く理解に困難をきわめる」引用箇所の文言とマニュアルである聚輪儀礼の儀則との間に存在する際だった相違である。言い換えれば、一般論としてタントラの文言だけではマニュアルとしては役立たず、具体的な記述をもった儀軌が新たに作成される必要があると言うことである。当儀軌はタントラといくつかの儀則で構成される儀軌との関係があからさまに見える好例と言えるものである。この点からも仏教タントリストの歌舞飲食の集会 melā とその特殊相としての聚輪、およびマニュアルとして作成された聚輪儀軌との位相差が歴史的な展開として詳しく論じられる必要がある。

注

(1) アールヤデーヴァ『行合集灯』第九章に『サマーヨーガ』uttaratantra が断片的に引用されていることからサンスクリットの原文を一部回収することができる。

(2) 田中（2000：6）参照。

(3) 福田（1974）田中（1989）（1992）参照。

(4) 大正蔵 p.869c

(5) 田中（1984）参照。

(6) 田中氏の卓見通り、『行合集灯』第九章においてもそこで引用されている『サンヴァラ』は『サマーヨーガ』のことである。田中氏の論法に依れば、この事実からも作者アールヤデーヴァは「チャクラサンヴァラ」のタントラ文献を知らなかったとも推定できよう。

(7) 静（2003）参照。聖者流の文献『五次第』においても『サマーヨーガ』は引用されている。

(8) 羽田野（1987：63）は、チベットに伝わる相承譜を検討して、「以上のようにして、ほぼ9世紀ころ Indrabhūti または Indrabhūti 王とよばれる人物が一成就者として存在していたことを知りうる」とする。

(9) Poussin（1896：35）参照。

dharmodayābhisambodhir ity anena bāhyāṅganayā saha saprapañcacaryā darśitā yathendrabhūteḥ /

法源の現等覚とはインドラブーティの〔説いた〕如き以下のような生身の女性と伴なる戯論の行の顕現である。

(10) *Rare Buddhist Texts Series 22*　p.88参照。

(11) 静（2001）参照。

(12) Toh 2490 Zi 240b5

longs spyod gsum po nyid med par // tshogs kyi bya bar 'gyur ma yin //

〔酒と肉と性瑜伽の〕三つの享受が無ければ、聚輪の所作とはならないのである。

(13) 森（1994：191）は施食儀礼を以下の如く要約している。

バリ儀礼の対象となるのは、マンダラの中尊とマンダラに含まれるそのほかの尊格、十忿怒尊、インドラたちのヒンドゥー神たち、すべての生類、そしてナーガである。（中略）バリ儀礼の供物には米飯や菓子、肉、魚、酒などがあげられている。花、灯明、香、塗香などを供えるプージャーの儀式とは異なり、食物や飲物が中心となっている。

2．『一切仏平等和合聚儀軌』（Toh 1672 TTP 2544）和訳

凡 例

［1］ 訳出に当たってはテキストしてデルゲ版(D)を底本とし、北京版(P)と校合した。

［2］ 版本はD 1672デリー本、P 2544 TTPを用いた。

［3］ テキスト当該箇所は

【1】『一切仏平等和合聚儀軌』

D Toh 1672, La 195a7-199a4.

P TTP 2544, vol.58,292.4.1-294.3.1.

【2】『サマーヨーガ』第六章

D Toh 366, Ka 159b4-163b5

P TTP 8, Vol.1,187.34-189.2.5

【3】『行合集灯 Caryāmelāpakapradīpa』（CMP） *Rare Buddhist Texts Series 22* pp.82-3

［4］ 『一切仏平等和合聚儀軌』が引用したと考えられる『サマーヨーガ』の箇所については、両者に下線を付した。

［5］ 翻訳上補った語句は〔 〕内に入れた。さらに内容に応じて段落に分けて、見出しを付けた。

［6］ テキスト校訂におけるヴァリアントの註はカッコ無しの数字で挙げた。

［7］ 和訳中のマントラは〈 〉で括って表記した。

Toh 1672（TTP 2544）

Sarvabuddhasamayogagaṇavidhi

一切仏平等和合聚儀軌

〔序〕

[195a7] rgya gar skad du / sa rva bu ddha sa ma yo gī ga ṇa vi dhi nāma /

インドの言葉で Sarvabuddhasamayogīgaṇavidhi-nāma

bod skad du / sangs rgyas thams cad dang mnyam par sbyor ba'i 〔195b〕 thogs kyi cho ga zhes bya ba //dpal mkha' 'gro'i tshogs la phyag 'tshal lo / dpal ldan bde chen sems dpa'i mchog // sangs rgyas sras mchog 'khor lo'i gnas //

rnam 'phrul cho ga ston mdzad pa'i // sku gsung dbyings la phyag tshal lo //

チベットの言葉で『一切諸仏との平等なる瑜伽の聚会の儀軌』と名づけるもの。吉祥なるダーキニーの集団に頂礼いたします。吉祥なる大楽者にして、菩薩のなかの最勝者であり、最勝なる仏子の輪に住するお方よ。変現の儀軌を御教示されるお方の身語界に頂礼いたします。

rnam pa sna tshogs mchog gyur pa'i // sangs rgyas thams cad mnyam sbyor ba //

mkha' 'gro sgyu ma bde mchog las // tshogs kyi cho ga bshad par bya //

あらゆるもののなかの最勝のものである『一切諸仏と平等なる瑜伽、ダーキニージャーラサンヴァラ〔タントラ〕』から聚会の儀軌を説こう。

[Samayoga]

rnam pa sna tshogs mchog 'byung ba'i // sangs rgyas thams cad mnyam sbyor ba //

mkha' 'gro sgyu ma'i bde mchog bshad // (159b4)

[CMP]

athātaḥ saṃpravakṣyāmi sarvato viśvam uttamam /

sarvabuddhasamāyogaḍākinījalasaṃvaram //

dpal ldan sangs rgyas kun gyi dngos // rdo rje sems dpa' bde 'byung ba // gsang ba mchog gi dgyes pa na // thams cad bdag[1] nyid rtag tu bzhugs //

吉祥なる一切諸仏から成る、金剛薩埵から出生した楽は、最勝秘密の歓喜において、一切の自性において常に存在している。

[Samayoga]

dpal ldan sangs rgyas kun gyi dngos // rdo rje sems dpa' bde 'byung ba // gsang ba mchog gi dgyes pa na // tham cad bdag nyid rtag tu bzhags // (159b4-5)

[CMP]

rahasye parame ramye sarvātmani sadā sthitaḥ /

sarvabuddhamayaḥ śrīmān vajrasattvodayaḥ sukhaḥ //

〔場所と時〕

bsod nams ye shes tshogs rdzogs pas // kun ldan tshogs kyi 'khor lo yin[2] //

rigs kyi bkod pa so so'i gnas // phun sum tshogs par bstan pa'am //

福徳と智慧の〔二〕資糧を円満するが故に、すべてを具えた聚輪である。部族が配置されるそれぞれの場所は用意周到なものとして示されたものであるか

yang na bde ba'i gnas dag tu // skyed mos tshal la sogs par bsgrub //

あるいはまた楽しい場所や遊園などで執り行われる。

[Samayoga]

yang na bdag gi gnas dag gam // skyed mos tshal la sogs par bsgrub // (159b6-7)

[CMP]

prasādhayanti bhavane sodyānādiṣu vā punaḥ /

mar ngo'i brgyad dang bcu bzhi dang // yar ngo'i brgyad dang bcu mtshams gnyis //

〔聚輪は〕黒月の八日と十四日と白月の八日と十日の二節〔に行うべきである〕。

der ni dang po gdan bshams te // 'jam zhing reg na bde 'gyur ba'i //

sna tshogs padma ras kyis g'yogs // de ni thams cad dag pa'i gdan //

そこでは最初に座を用意するのであって、柔らかくて触り心地のよい雑色蓮華と布で覆うべきである。それはすべてが清浄なる座である。

[Samayoga]

der ni dang po gdan bshams te // 'jam zhing reg na bde 'gyur ba //

sna tshogs padma ras kyis g'yogs // de ni thams cad dgab'i gdan // (159b7)

[CMP]

tatrāsanaṃ niveśyādau mṛdusaṃsparśajam sukham /

viśvapadmapaṭacchatraṃ sarvaśuddhāsanaṃ hi tat //

〔目的〕

sangs rgyas kun gyi dam tshig dpal // rdo rje sems dpa'i snang ba bde //
de bzhin gshegs pa'i pho brang mchog // rin chen rgyan la sogs pas spras //
dril bu rgyal mtshan mchog ldan pa'i // bla re dam pa bres pa na //
rdo rje tshig dang mchog la sogs // glu dang sil snyan rnam par 'phrul //
me tog bdug pa'i sbyor ba dang // mar me dri la sogs ldan par //
sangs rgyas thams cad mnyams sbyor ba'i // mkha' 'gro sgyu ma bde mchog bsgrub //

吉祥なる一切諸仏の三昧耶であって、金剛薩埵の現れである楽は、如来の最勝なる宮殿の宝の飾りなどで荘厳された最勝の鈴と幢幡を具えた妙なる天蓋を広げた時に、金剛の言葉と最勝なるなるものの歌と楽器で変現し、花と焼香を準備し灯明と塗香などを具えたときに、一切諸仏と平等瑜伽なる荼枳尼網サンヴァラを成就する。

[Samayoga]

sangs rgyas kun gyi dam tshig dpal // rdo rje sems dpa'i snang ba bde //
de bzhin gshegs pa'i pho brang mchog // rin chen rgyan la sogs pas spras //
dril bu rgyal mtshan mchog ldan pa'i // bla re dam pa bres pa na //
rdo rje tshig dang mchog la sogs // glu dang sil snyan rnam par 'phrul //
me tog bdug pa'i sbyor ba dang // mar me dri la sogs ldan par //
sangs rgyas thams cad mnyams sbyor ba'i // mkha' 'gro sgyu ma bde mchog bsgrub // (159b5-6)

[CMP]

tathāgatamahādivyaratnajālādyalaṅkṛtam /
tatho ghaṇṭāvasaṃsaktavitānavitatojjvale //
vajragītiṃ ca pūjāṃ ca gītavādyair vikurvitam /
puṣpadhūpādiyogena dīpagandhādibhis thatā /
sarvabuddhasamāyogaḍākinījālasaṃvaram //

〔阿闍梨と会衆の招請〕

slob dpon mgon la legs zhus nas // phun sum tshogs pa'i rjes 'jug cing //

sangs rgyas brda dang ldan pa yis // me tog thogs te 'gro la bskul //
rnal 'byor pho mo thams cad kun // dga' zhing dang ba'i sems bcas kyis[3] //
do nub bdag gi gnas dag tu // tshogs kyi cho ga mdzad par gsol //
e ma bu ni snying rje che // gal te lag pa'i phreng ston na //
'du bar bya zhes smra ba yin // 〔196a〕 phreng ba mngon par btang byas nas //
dam tshig la gnas brtul zhugs bzang // dpa' po gzhan don spyod pa'o //

阿闍梨を導師として招請してから、準備万端整えた後に〔輪に〕住して、仏の〔お説きになった〕サイン（choma）をもつ者（施主）が花を身に着けて出かけていって、強く勧めるべきである。「男女の瑜伽者の皆さん。歓喜と清浄なる心をもつお方によって、今夜私の住まいにおいてガナ〔チャクラ〕の儀軌を為してください」と申しあげるのである。〔瑜伽者が施主に向かって〕「嗚呼、息子よ、大悲者よ」〔と言って〕もし手にしている華鬘を示すならば「集まりましょう」という言葉である。華鬘を手放してから、三昧耶に住してよく禁戒〔を保つ〕勇者が利他を行ずるのである。

de nas nub mo 'dus pa dang // phyi nas 'dag chal dri chab chus //
khrus byas me tog gis brgyan cing // rnal 'byol dag chos sngags kyis sbyang //
de nas nang gi khrus byas te // sngags kyis bsrungs[4] shing byin brlabs nas //
dam tshig tshogs rnams bskang gso zhing // rim bzhin nang du 'gro bar bya //

そこで夜に集まり、外を清めるもの（pañcagavya 牛五浄）と香水で沐浴して〔身体を〕花で飾って、瑜伽と清浄なる法とマントラで清浄となすべきである。つぎに内の沐浴をして、マントラで守護して加持してから、三昧耶など[5]を満たし修復して順番に中へ進むべきである。

〔護門の阿闍梨の配置〕

dam tshig brda sogs brtags pa'i phyir // khro bo'i rgyal[6] sngon las mkhan gnyis //
rigs[7] pa'i sngags brjod mthong bas[8] 'dzin // bsrung ba'i don phyir sgo 'gram

gnyis //

〔参加希望者の〕三昧耶と身振りなど〔の遵守〕を吟味するために忿怒の王である nīladaṇḍa〔の装束をした〕二人の作務者（karmakāraka）が〔配置されるのであり、彼らは〕部族のマントラを唱え、監視を怠らずに守護のために〔観音開きの〕扉の両脇に〔住するのである〕。

〔会衆の着座〕

kye[9] khro rgyal rgyan sngon dag gis mdzes // dam tshig rnam par spyod pa po[10] //

dngos grub rin chen dbyug to 'dzin // dpa' bo dpa' mo 'du[11] bar mdzod //

mkha' mdzes rnal 'byor ma dkyil du // dam pa'i mtshan ldan bdag thong shig //

Oṃ ma hā sa ma ya[12] hūn / su ra tas tvaṃ /

rdo rje slob ma chen po dang // rang gi grogs mchog lha rnams la //

bskor zhing phyag 'tshal rang nyid kyi // stan la gus pa'i sems kyis 'dug //

〔集会に参加する瑜伽者たちは〕「嗚呼、忿怒の王よ、紺青色の身体を美しく飾ったお方よ、三昧耶を行ずる者よ。成就して宝をつけた杖（daṇḍa）をもつお方よ。男女の勇者（vīra, vīrā）に集会をさせ給え。虚空〔のような色をした〕美しい瑜伽女〔たち〕の真ん中に妙勝なる標幟をもつお方よ、私を入れてください」〔と唱えるのである〕。

〈オーン、大いなる三昧耶〔をもつ者〕よ、フーン。汝、愛楽者よ。〉〔お許しを得た瑜伽者たちは〕金剛の大弟子と自らの最勝の友と尊格たちを囲遶し頂礼して自身の座に恭敬の心で着坐するのである。

〔香曼荼羅の作成〕

yon bdag las mkhan gang rung gis // sa gzhi legs bsham dri bcas chus //

khru gang la sogs tshad mnyam pa'i // maṇḍala rgyan dang bcas par bsham //

rdo rje brjid[13] gnon sngags kyis ni // bsang sbyang bsrung zhing byin gyis rlob[14] //

rig pa chad dag rnam phye la // dkyil 'khor sngags kyis me tog dgram[15] //

Oṃ vadzra re khe hūṃ / 'jig rten pa yi maṇḍala ni // de yi 'og tu brtsam par

bya //

施主と作務者のいずれか相応しい者がきちんと準備した地面〔の上〕を薫香の入った水で〔一説では正方形の一辺が〕一肘と等しい、飾り付けられた〔香〕曼荼羅として準備して、金剛威光のマントラで浄化し守護して加持すべきである。明呪の約束[16]を区別して、曼荼羅にマントラを唱え花を撒いて、〈オーン、金剛線よ、フーン〉〔と唱えるべし〕。世間の〔香〕曼荼羅についてはその後で開始するのである。

phyogs bzhir dkyil 'khor rnam bzhi'am // yang na gcig tu dgod par bya //

dbus su rta mchog lha mo ste // zla gam lha mchog chen po'i gnas //

bar khyams[17] dang por phyogs skyong lha // gnyis par mkha' 'gro'i tshogs rnams te //

gsum par klu rgyal 'khor bcas tshogs // bzhi par 'gro drug bgegs tshogs po //

四方に曼荼羅を四種類か、あるいはまた一つ〔の曼荼羅〕として建立するべし。真中には最勝馬と女尊であって、半月は大いなる最勝の尊格の住処。第一の回廊には護方神、第二の回廊にはダーキニーの集団であり、第三の回廊には眷属をひきつれたナーガ王の集団、第四の回廊には六趣のヴィナーヤカの集団である。

〔施物の奉献〕

so so'i las dang mthun pa yi // tshogs pa'i rgyan rnams dgram par bya //

mchod yon mchod tshogs[18] rim gro dang // nya sha la sogs〔196b〕bza' ba dang //

chang rtsi myos byed phreng ba dang // g'yon du nye bar dgod par bya //

g'yas pa dag tu chu yi snod // ku sha'i chun po[19] nyungs kar bcas //

mdun du mchod yon bzed zhal dang // rdo rje dril bu phyag rgya'i tshogs //

mchod pa'i phyags rgya'i shes tshogs rnams // mdun gyi dkyil 'khor dang po la //

mchod pa kun gyi gtor ma'i tshogs // phyag rgya shes pa'i rdzas rnams ni //

'jig rten pa yi dkyil 'khor la // bgod[20] de bsrung sbyang shes par bya //

それぞれの働きに相応した、集団の装飾を布置するべし。閼伽と供物の品々

による恭敬〔供養〕と魚や肉などの食物と酒や果汁や酔わせる飲料の列を左に置くべきである。右側には清浄なる水の入った器、白芥子とともにクシャ草の束、前には閼伽の受け皿と金剛杵と鈴と印契のまとまり〔を置くべきである〕。供養の印契を知る供物の品々を前の第一の曼荼羅に、普供養の施食の集積と印契を知る財物を世間の曼荼羅に置いてそれ〔ら〕は守護されていて清浄なりと知るべきである。

〔守護輪の観想〕

bsod nams tshogs kyis dag byas nas // srung[21] ba'i 'khor lo bsgom par bya //

gzhi rten sbyor ba'i ting 'dzin gyis // dam tshig dkyil 'khor sbyor ldan pas //

bsgom pa'i yan lag ma nyams par // rigs kyi rnam par bsgom par bya //

ye shes dkyil 'khor dmigs shing // mdun gyi dkhil 'khor gnyis med pa'i //

dkyil 'khor mnyes[22] pa'i[23] las bya'o //

福徳の積聚によって清浄となしてから、守護輪を観想するべし。本尊瑜伽の三摩地によって三昧耶曼荼羅を具えた者が観想の支分に違犯することなく〔その曼荼羅を〕部族の種類で観想すべきである。智慧の曼荼羅を縁じて〔自分の〕前の曼荼羅が〔三昧耶曼荼羅に智慧の曼荼羅が入った〕無二の〔曼荼羅であるとして〕、曼荼羅に喜びの行為をなすべきである。

〔飲食の偈頌〕

chang la sogs pa'i yo byad rnams // mdun nas phyag tu ci rigs dbul //

ltos shig rnal 'byor rgyan mdzes rnams //'di la rnam rtog yod ma yin //

bram ze khyi dang gdol pa rnams // rang bzhin gcig pas lhan cig bza' //

Oṃ ma hā sa ma ya / ku ru ku ru dha ro ku ru hūṃ phaṭ /

bde gshegs de ni sdig med cing // 'dod chags sogs pa'i skyon dang bral //

gzung 'dzin dri ma rnam par spangs // de bzhin nyid la bdag phyag 'tshal //

g'yas dang g'yon gyi lag gnyis kyis // padma'i bskor ba byas nas ni //

rol par[24] bcas pas bza' ba bzung // rang gi lha yi sbyor ba yis //

ji bzhin du ni 'jug par bya'o //

酒など諸々の資具は〔参会者の〕面前で頂礼して、適当な呪でもって差し上げるべし。「見よ。麗しい瑜伽で飾られた品々を。これについては妄分別が

あることはない。バラモンと犬とチャンダーラたち〔の三者〕は本性が同一であるが故に俱に食せ。

〈オーン、大いなる三昧耶をもつ者よ、為せ、為せ、保持する者よ、 為せ、フーン、パット。〉

善逝は罪過無くして、貪染を始めとする過失を離れて能執と所執の垢を遠離している。そうした真如（tathatā）にたいして私は頂礼いたします」〔と唱えて〕左右の二手で蓮華の旋転を為して〔受け取るべし〕。遊戯と共に食べ物を取って、自らの尊格との瑜伽を為して、好きにしてそこに居るべきである。

〔等至〕

rdo rje slob dpon blo ldan pas // chang sogs rdzas rnams byin gyis brlab[25] //

g'yo zhing 'bar ba'i gzugs can dang // khyad par du ni bskor[26] ba nyid //

shel gyi gzugs kyis byin brlab cing // thams cad bdud rtsi'i ngo bor brtag //

de nyid yang dag spyod pa 'dis // rnal 'byor pa ni kun nas bdag //

ji ltar bde bar brjod par bya // sgyu ma lta bu mdzes pa yi //

'o byed sogs sbyor kun 'khyud〔197a〕pa // sems can don du yang dag spyad //

智慧を具えた金剛阿闍梨が酒を始めとする諸々の財物を加持して、動いて燃え盛る姿をもつものと特別に回転するものを水晶の形で加持して、すべて〔の財物〕が甘露を自性とすると観察し、この真実の正しい行によって、「瑜伽者はどこからでも私の〔処へ来てください〕、出来るだけお楽しみ下さい」と唱えるべきである。幻のように美しい〔瑜伽女との〕接吻など堅い抱擁[27]を衆生のために正しく行じさせるべし。

〔誓約〕

de nas mna' ni bsgags byas nas // sangs rgyas thams cad mthun pa yi //

mchog tu rtag pa'i bkal stsal pa // dam tshig sdom pa[28] sbyin par bya //

sangs rgyas tham cad mnyam sbyor ba'i // sdom pa nyams par khyed byed pa //

ji snyed sangs rgyas thams cad dang // byang chub sems dpa' rdo rje 'dzin

//

lha dag dang ni mi dag dang // de bzhin rnal 'byor sgrub pa po //

de dag la ni snying ring[29] nas // snying nas khrag chen 'thungs pa yin //

bdag gi ngo bo yongs spangs shing // dka' thub kyis ni gzir mi bya //

ci bde bar ni bde bar spyad //'di ni phyi dus sangs rgyas yin //

rnal 'byor longs spyod thams cad la // cis kyang mi 'jigs dga' bar gyis //

sdig med stobs kyis khyod ma 'jigs // dam tshig 'da' bar dka' ba'o //

つぎに誓いを為させてから一切諸仏に相応しい最勝で不変の教勅と三昧耶の律儀を与えるべし。「一切仏平等瑜伽の律儀に違犯を為す汝は、あらん限りの一切諸仏・菩薩と持金剛と尊格たちと人間たちと、同様に瑜伽の行者である者たちのなかで心臓から離れて、心臓から大血を飲む者である。自分の本性を普く捨てて、苦行によって苦しんではいけない。いかなる楽も喜んで行じるべし。この者は来世には仏である。瑜伽を享受するすべての者については、何ものにも怖れのない歓喜を為せ。罪過が無いが故に汝は怖れるべからず。三昧耶を越えることは困難である。」

[Samayoga]

de nas mna' ni bsgags byas nas // sangs rgyas thams cad mthun pa yis //

mchog tu rtag pa'i bkal stsal pa // dam tshig sdom pa sbyin par bya //

sangs rgyas tham cad mnyam sbyor ba'i // sdom pa nyams par khyed byed pa //

ji snyed sangs rgyas thams cad dang // byang chub sems dpa' rdo rje 'dzin //

lha dag dang ni mi rnams dang // de bzhin rnal 'byor grub pa po //

de dag la ni snying rings nas // snying nas khrag chen 'thungs pa bzhin //

bdag gi ngo bo yongs spangs shing // dka' thub kyis ni gzir mi bya //

ci bde bar ni bde bar spyad //'di ni phyi dus sangs rgyas yin //

rnal 'byor longs spyod thams cad la // cis kyang mi 'jigs dga' bar gyis //

sdig med stobs kyis khyod ma 'jigs // dam tshig 'da' bar dka' ba'o //

(162a7-b3)

tshogs kyi dpa' bo'i ston mo las // slob dpon las kyi rim pa'o //

〔これまでは〕ガナの勇者の饗宴より阿闍梨の行為の次第である。

〔曼荼羅成就〕

de nas khrus byas dri yi lus // ji ltar 'byor pa'i gos dang rgyan //

sna tshogs rnam par bgos nas ni // me tog phreng ldan kha dri zhim //

次に〔阿闍梨は〕沐浴して薫香〔を塗った〕身体を適切な衣服で飾り、様々な種類の服を着て華鬘を付け、口には香気〔を含ませ〕、

[Samayoga]

de nas khrus byas dri zhim lus // ci 'byor ba yi gos dang rgyan //

sna tshogs gos bzang bgos nas ni //me tog phreng ldan kha dri zhim //

(160a7-b1)

sems can khams ni ma lus don[30] // srid pa shin tu dag bya'i phyir //

mi 'gog chos nyid sbyor ba yis // mnyam pa nyid du bsgrub par bya //

余すところ無き衆生界の利益と輪廻を徹底して清浄と為すために、不壊の法性と結びついた平等性として〔曼荼羅を〕成就するべし。

[Samayoga]

sems can khams ni ma lus don // srid pa shin tu dag bya'i phyir //

mi 'gog chos nyid sbyor ba yis // rtag pa nyid du bsgrub par bya // (162b2)

gru bzhi pa la sgo bzhi pa // rta babs bzhi yis mdzes par byas[31] //

rdo rje rin chen padmo sogs // sgo srung[32] dang ni ldan par bya //

rang gi lha dang 'dra ba yi //bud med dag ni legs bsgrub pas //

skal bzang rang gi phyag rgyas mtshan // tshogs kyi dkil 'khor brtags par bya //

四角にして四門であり、四つの鳥居門で飾って金剛と宝と蓮華などと門衛を備えたものとして作るべし。自らの尊格〔の装束〕を身に着けて、自らの印契と標幟で飾った愛らしい女性たちの〈ガナ曼荼羅〉(gaṇamaṇḍala) を作るべし。

[Samayoga]

gru bzhi pa la sgo bzhi pa // rta babs bzhi yis mdzes par byas //

rdo rje rin chen padmo sogs // sgo srung dang ni ldan par byas //

rang gi lha dang 'dra ba yi //bud med dag ni legs bsgrub pa //

skal bzang rang gi phyag rgyas mtshan // tshogs kyi dkil 'khor brtags par

bya // (160a1-2)

[CMP]

caturastraṃ caturdvāraṃ catustoraṇamaṇḍitam /vajraratnapadmādi tu dvārapāleṇa yojayet //

svādhidaivatpratimukhaiḥ suprasādhitayoṣitam /svamudrācihnasubhagāṃ kalpayed gaṇamaṇḍalam //

〔金剛薩埵の変現〕

sangs rgyas thams cad mnyam sbyor ba // sbyor ba'i dbang phyug rnam 'phrul bas //rdo rje sems dpa' dpal gyi lha // de ni rnam par 'phrul bar mdzad //

一切諸仏と平等なる瑜伽〔を行ずる〕瑜伽の自在者が変現することによって、金剛薩埵である吉祥なる尊格であるそのお方が変現を為される。

[Samayoga]

sangs rgyas thams cad mnyam sbyor ba // sbyor ba'i dbang phyug rnam 'phrul bas //

rdo rje sems dpa' dpal gyi lha // de ni rnam par 'phrul bar mdzad // (159b7-160a12)

[CMP]

sarvabuddhasamāyogaṃ yogeśvaravikurvitam /śrīvajrasattvarūpās tu vikurvanti hi tat tu vai //

brtan zhing grub pa'i slong byed pa // kun nas slong ba'i bde ba ni //

stong pa shin tu[33] rnal 'byor yod med mthus // nam mkha' nyid du dam tshig nye bar gnas //

bde gshegs bde bar gshegs pa bzhengs su gsol // rdo rje sems dpa' skal[34] bzang dpal khyod bdag //

堅固にして成就の鼓舞をなさるお方、すべてより生起した楽であり、甚深瑜伽による有と無の空なる威力によって虚空なるものとして三昧耶に住される善逝よ、善逝よ、お姿をお現し下さい。金剛薩埵よ、福分は吉祥なる汝の自性なり。

[Samayoga]

brtan zhing grub pa slong byed pa // kun nas slong ba'i bde ba ni //
stong pa shin tu rnal 'byor yod med mthus // nam mkha' nyid du dam tshig nye bar gnas //
bde gshegs bde bar gshegs pa bzhengs su gsol // rdo rje sems dpa' skal bzang dpal khyod bdag // (160a1-3) 〔197b〕

Oṃ e hye ti bha ga vān ma hā kā ru ṇi ka tri śya ho sa ma yas[35] tvaṃ jaḥ hūṃ vaḥ hoḥ sa ma yas[36] tvaṃ /
オーン、速やかに来たり給え、世尊よ、大慈悲をもつお方よ、triśyaho 汝は三昧耶薩埵なり、ジャフ、フーン、ヴァン、ホッホ、汝は三昧耶薩埵なり。

de nas yang dag rab[37] gsal bas // bud med dag ni bzhi rnams la //
gar gyi[38] phyag rgya'i mchod pa yis // mchod pa thams cad dbul bar bya'o //
Oṃ āḥ hūṃ /
rab tu dga' ba'i bdag la phyag 'tshal lo // de bzhin gshegs pa'i dam pa grub par mdzad //
dam tshig dam pa grub par mdzad du gsol// mchod pa chen po thams cad dag par mdzad //
mchod pa chen po thams cad grub par mdzod // glu yi phyag rgya 'di ni dpal //
rdo rje sems dpa' la gnas te // mchod pa ma lus byed pa yi //
rab 'byams[39] las la sbyor du rung // gang dag grub par ma gyur dang //
mchod pa dag ni mi 'byor ba // phyag rgya 'di yis mchod byas na[40] //
mchod pa thams cad myur du 'grub //
次に金剛薩埵が示現してから、婦人たちは四人であって、踊りの印契の供養によってすべての供物を献じるべきである。「オーン、アーハ、フーン。深い歓喜を自性とされるお方に頂礼いたします。如来の誓いを成就させ給え。妙勝なる三昧耶を成就なさるようお願いします。すべての大供物を清浄に為し給え。すべての大供物を成就し給え。」この歌の印契は吉祥であり金剛薩埵に住しているのであり、余すところ無き供養を為す広大無辺な行為と結びつくにふさわしい。成就していない者や適切ではない供養であってもこの印

契によって供養を為す時には、すべての供養は速やかに成就するのである。

[Samayoga]

de nas yang dag rab gsang bas // bud med dag ni bzhi rnams dang //
gar gyi phyag rgya mchod pa yis // mchod pa thams cad dbul bar bya'o //
rab tu dga' ba'i lha la phyag 'tshal lo // de bzhin gshegs pa'i dam pa grub par mdzad //
dam tshig dam pa grub par mdzad du gsol// mchod pa chen po thams cad dag par mdzad //
mchod pa chen po thams cad grub par mdzod // glu yi phyag rgya 'di ni dpal //
rdo rje sems dpa' la gnas te // mchod pa ma lus lus med pa'i //
rab 'byams las la'ang sbyor du rung // gang dag grub par ma gyur dang //
mchod pa dag ni mi 'byor ba // phyag rgya 'di yis mchod byas na //
mchod pa thams cad myur du 'grub // (162a1-4)

de nas ro mchog bza' btung nas // glu tshig sil snyan la sogs pa //
de dag mgon po rnams la dbul // dkyil 'khor tshogs bcas dbyer med blos //
rdo rje bla ma chen po dang // bdag gzhan tshogs la[41] 'dod dgus mchod //

次に最勝の味の食物と飲み物から始めて歌と楽器などそうしたものを尊主たちに献じるべし。集団を伴った曼荼羅の差別無き智慧によって、大金剛グルと自分と他の集団にたいしてすべての願望によって供養するべし。

[Samayoga]

de nas ro dang zas dang gnas // glu dang sil snyan la sogs pa //
de dag mgon po rnams la dbul // rdo rje bla ma chen po dang //
bdag dang bzhan la 'dod dgus mchod // (162b6)

rnam pa mang po'i 'dod chags rgyud kyi sems can ma lus lus pa[42] med par 'dul[43] mkhas pa //
de bzhin gshegs pa kun gyi mkha' 'gro sgyu mas thams cad rab sprul rnam par sprul //
te na te te hūṃ /

貪染の心相続をもつ多くの種類の衆生を余すところ無く教化するのに巧みな

お方よ。一切如来のダーキニー幻網によってすべての者を変現させ給え。テーナ、テーテー、フーン。

[Samayoga]

rnam pa mang po'i 'dod chags rgyud kyi sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa //

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma'i bde mchog sgyu mas thams cad rab sprul rnam par sprul //

te na te te hūṃ / (161a5)

rnam pa mang po rab tu dga' bo'i rgyud kyi sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa //

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma bde mchog sgyu mas thams cad rab sprul rnam par sprul //

hūṃ hūṃ hūṃ /

歓喜の心相続をもつ多くの種類の衆生を余すところ無く教化するに巧みなお方よ。一切如来のダーキニー幻網によってすべての者を変現させ給え。フーン、フーン、フーン。

[Samayoga]

rnam pa mang po rab tu dga' bo'i rgyud kyis sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa /

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma bde mchog sgyu mas thams cad rab sprul rnam par sprul //

hūṃ hūṃ hūṃ / (161a5-6)

rnam par mang po khro bo'i rgyud kyi sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa //

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma bde mchog sgyu ma thams cad rab sprul rnam par sprul //

ru lu ru lu hūṃ bhyo hūṃ /

忿怒の心相続をもつ多くの種類の衆生を余すところ無く教化するに巧みなお方よ。一切如来のダーキニー幻網によってすべての者を変現させ給え。ル、ル、ル、ル、フーン、 ビョー、フーン。

[Samayoga]

rnam par mang po khro bo'i rgyud kyis sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa //

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma bde mchog sgyu ma thams cad rab sprul rnam par sprul //

ru lu ru lu hūṃ bhyom hūṃ / (161a6-7)

rnam pa mang po srog gi rgyud kyi sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa //

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma bde mchog sgyu mas thams cad rab sprul rnam par sprul //

haṃ[44] śi śva vi śva hūṃ /

殺害の心相続をもつ多くの種類の衆生を余すところ無く教化するに巧みなお方よ。一切如来のダーキニー幻網によってすべての者を変現させ給え。ハン、śiśva viśva フーン。

[Samayoga]

rnam pa mang po srog gi rgyud kyis sems can ma lus lus pa med par 'dul mkhas pa //

de bzhin gshegs pa kun gyi sgyu ma bde mchog sgyu mas thams cad rab sprul rnam par sprul //

hūm śi śya bham śa hūm / (161a7)

〔金剛薩埵の百字真言〕

Oṃ vadzra sa tva sa ma ya / ma nu pā la ya[45] / vadzra sa tva tve no pa ti ṣṭha dṛ ḍho me bha va / su to śyo me bha va a nu ra kto me bha va / su po ṣyo me bha va / sa rva si ddhi 〔196a〕 me pra ya ccha / sa rva ka rma[46] su ca me ci ttaṃ / śe yaḥ ku ru hūṃ / ha ha ha ha ho / bha ga vān / sa rva ta thā ga ta / vadzra mā me mu ñja / vadzra bha va / ma hā sa ma ya sa tva āḥ /

オーム、金剛薩埵よ、〔われをして〕三昧耶をば護らしめよ。金剛薩埵として〔わが傍らに〕とどまれ。われにとって堅固であれ。われにとって喜ばしきものであれ。われにとって随染せられたものであれ。われにとってよく増

盛せしめれれるべきものであれ。一切悉地をわれに与えよ。そして一切の業においてわれに心の幸福をもたらせ。フーム、ハ、ハ、ハ、ホー、世尊よ、一切如来金剛よ、われを棄つることなかれ。〔われにとって〕金剛〔堅固〕であれ。大三昧耶薩埵よ、アーハ[47]。

（オーン。金剛薩埵の三昧耶に、保護者となれ、金剛薩埵の強い力を出現せよ、堅固性が我がためにあれ、我がために喜ばしきものであれ、我がために栄えるものであれ、而して一切の成就を我に授与せよ、一切業において、而して我がために心の吉祥をなし給え、フーン、ハ、ハ、ハ、ホー、世尊、一切如来、金剛よ、我がために捨て去ることなかれ、金剛を有するものであれ、大三昧耶の薩埵よ、アーハ[48]。）

〔施食供養〕

de nas zos shin 'thungs pa yi // lhag ma'i tshogs rnams kun bsdus te // gong du bkod pa'i gtor[49] ma dang // so sor byin brlabs bsngo bar bya // ha ho hrīḥ yi sbyor ba yis // bdud rtsi'i rang bzhin 'dod lnga'i tshogs // mdzes pa'i phyag rgya smin mtshams gnas // sngags bcas mgron tshogs bsdus bar bya //

Oṃ ha hi ru lu ru lu jaḥ hūṃ vaṃ hoḥ vadzra ḍā ki ni bhyo / e a ra lli[50] ho ja ja / Oṃ su mbha ni su mbha jaḥ hūṃ vaṃ hoḥ ā ka ḍa ḍha ya / ā ka ḍa ḍha / pra ve śa ya / ba ndha ya ba ndha ya / to ṣa ya / to ṣa ya / mo ha ya / mo ha ya / e a ra lli ho[51] / hriṃ hriṃ hriṃ

次に食べたり飲んだりした残りの品々をすべて集めて、先に置いた施食と〔一緒にして〕それぞれに加持して回向するべし。ハ、ホ、フリーヒの文言と一緒にして甘露を自性とする五妙楽（pañcakāmaguṇa）を積聚した美しい印契を眉間において、マントラと一緒に賓客の集団を集めるべきである。〈オーン、ha hi ru lu ru lu ジャフ（鉤召）、フーン（引入）、ヴァン（妙縛）、ホッホ（歓喜）、金剛ダーキニーたちに、嗚呼、遊戯者よ、ホー、ジャ、ジャ。オーン、スンバ、ニスンバよ、ジャフ、フーン、ヴァン、ホッホ、ākaḍaḍhaya ākaḍaḍha〔ya〕引入せよ、引入せよ。縛せよ、縛せよ。満足させよ、満足させよ。mohaya mohaya 嗚呼、遊戯者[52]よ、ホー、フリム、フリム、フリム。〉

Hūṃ las rngam chen 'bar ba'i sku ston cing // 'jig rten lha chen yab yum

zhabs kyis gnon //

drag po'i dkyil 'khor sna tshogs ston mdzad cing // dbu ma[53] rta skad 'tsher zhing gar mdzad pa //

nyi ma 'bum gyi 'od mnga' sku la rdzog // khro rgyal 'khor bcas ma lus gshegs su gsol //

'jigs byed[54] dbang phyug chen po dang // de bzhin tshang pa brgya byin sogs //

khyab 'jug 'dod dga' dbang phyug dang // 'jig rten skyong ba'i lha dang klu //

gang dag rdzu 'phrul mthu mnga' rnams // bran mngags g'yog dang chung mar bcas //

dpa' bo'i spyan sngar dam bcas bzhin // rang gi dam tshigs dran byos la[55] // tshogs kyi dkyil 'khor bsrung ba'i[56] phyir // 'khor bcas gnas 'dir gshegs su gsol //

「フーン字から燃え盛る大威容の身を示し、世間のマハーデーヴァの父母を御足で踏みつけて忿怒尊の様々な曼荼羅をお示しになり、烏摩妃を〔踏みつけて〕馬の声の雄叫びを挙げて舞踏なさるお方よ[57]。十万の太陽の光明の力を身に円満され、余すところなき眷属をつれた忿怒王よ、お越し下さい。バイラヴァと大自在天と同じくブラフマーとインドラなどやヴィシュヌと欲の自在者と世間の護法の尊格とナーガと威神力ある者たちが僕と召使いと妻を伴って勇者の御前で誓いをもつように、自らの三昧耶を憶念した上で、聚会曼荼羅を守護するために眷属をつれてこの場にやってくるようにしてください。」

'od zer sngags kyis sbyang byas nas // rigs kyi dkyil 'khor mngon par gsal //

Oṃ ka kkha ḍha na / ba bba na dha na ka kkā da na / sa rva ḍuṣṭa na / ha na ha na / gha gha ghā ta ya / a mu ka syā / śā nti ku ru / hūṃ hūṃ phaṭ phaṭ dza svā hā /

bdud rtsi bsam gtan dmigs nas ni // bdud rtsis kha ni dag par bya //

Oṃ gu ru tro ta khā hi / sa ma ya braṃ śa khā hi / bha kṣa su gan / bhu ta kṣe tre pra ti staṃ / bha[58] ya khā hi

光明のマントラで清浄となして部族の曼荼羅を現前に明らかに示すべし。
〈Oṃ kakkhaḍhana babbana dhanaka kkādana すべての極悪なる者を殺せ、殺せ、gha gha ghātaya 何某の寂静を為せ。フーン、フーン、パット、パット、ジャ、スヴァーハー。〉
甘露を禅定で縁じてから甘露で口を清めるべし。
〈オーン、グル trotakhāhi。三昧耶の逸脱 khāhi、貪り喰らえ、sugan 、生類の国土においてそこに立て、bhaya khāhi〉

lhag ma kha chu'i tshogs kyis bran // dgyes pa'i longs 〔196b〕 spyod rnam par rol //
Oṃ 'jig rten kun gtso mnga'mdzad pa'i // lha chen dregs byed stobs ldan pa //
bde gshegs sras sogs bran mdzad pa'i // byang chub sems ldan snying rje can //
dbang phyug chen po chung mar bcas // de bzhin khyab 'jug tshangs pa dang //
brgya byin 'dod dga' chung mar bcas // lha chen 'khor bcas tshogs rnams dang //
phyogs skyong brgyad po 'khor bcas dang // klu chen brgyad po 'khor bcas dang //
mkha' 'gro chen mo gsus 'dzin ma // dur khrud ma mo'i[59] tshogs bcas dang //
gzhan yang lha srin sde brgyad dang // 'gro ba drug po 'khor bcas rnams //
sku gsung thugs sogs sbyang byas nas // rang gi lha yi gzugs 'dzin rnams //
gnas 'dir 'dus pa'i dam tshig can // mcod gtor rgyan[60] dang bcas pa bzhes //
dam tshig bsrung zhing[61] dam tshig can // las la sogs pa'i[62] mkha' 'gro'i tshogs //
mkha' 'gro chen mo 'khor bcas rnams // rnal 'byor bsgrub pa'i grogs mdzod cig //
las mdzad rdo rje bran bcas pas // zhi rgyas dbang drag las grub cing //
theg chen gsang sngags bsrung ba dang // nad dang gnod sogs zhi ba dang //
tshe dbang bkra shis spel ba dang // bde legs 'bras bu grub par mdzod //
Oṃ sa rva du ṣṭa na / ghi na ghi na / ga ccha hūṃ phaṭ /

残りを唾液のかたまりで吐き出して喜びの財を味わうのである。

「オーン、一切世間の首領を支配されるお方よ。マハーデーヴァよ。我慢と威力をもつお方よ。善逝と〔仏〕子などを僕とされる菩提心をもつお方よ。悲をもつお方よ。妻を伴った大自在天、同じくヴィシュヌとブラフマーと貪欲に歓喜する妻を伴ったインドラと眷属を伴ったマハーデーヴァの集団と眷属を連れた八護方神と眷属を連れた八大竜王とマハーダーキニーと屍林の母神のガナを伴った gsus 'dzin ma（Lambā? 羅刹女）とさらにまた鬼神八部衆と眷属を伴った六道輪廻する有情たちよ、身語心などを清浄となしてから、自分の尊格の姿をもつ者たちよ、この場所に集まっている三昧耶をもつ者よ。飾り付けた供物と施食を納受し給え。三昧耶を守護せよ。三昧耶をもつ者よ。業など〔を為す〕ダーカの集団と眷属を連れた大ダーキニーたちよ。瑜伽を成就した者の友とお成り下さい。事業をなさるお方が金剛の僕と一緒に、息災と増益と敬愛と調伏の業を成就して、大乗と秘密真言を守護し病と傷害などを鎮めて、長寿の力と吉祥を増進して楽と妙果を成就させ給え。」

〈オーン、 すべての極悪なる者を ghina ghina[63]行け、フーン、パット〉

〔誓願〕

de nas sna tshogs gar gyi rgya // dga'[64] mdzes stobs kyis bsgyur bya zhing //

sna tshogs glu rnams snyan pa'i dbyangs // dpa' bo'i tshogs kyis legs par blang[65] //

rdo rje thal mo legs sbyar ba // rang gi snying gar gzhag[66] nas su //

sems can thams cad la dmigs te // smon lam rgya chen gdab par bya //

sems can thams cad sdig med cing // dus kun du ni bde gyur cig //

sangs rgyas nyid dang 'phrad 'gyur ba'i // lam de nyid la zhugs nas kyang //

ma sgral ba rnams bsgral ba dang // ma grol ba rnams dgrol bar shig //

kun gyis rig[67] 'dzin bgrod byas nas // sku gsung 'bras bu skye 'gyur zhing //

rnal 'byor gtsug lag dam tshig la // da lta nyid du〔198a〕gnas par shog //

次に様々な踊りの印契と麗しい歓喜によって動かされて、様々な歌のよい響きのメロディーを勇者の集団が歌って、結んだ金剛合掌を自分の胸に置いて、一切衆生のことを考えて広大な誓願を唱えるべし。

「一切衆生が罪過無くして、いかなる時にも楽となりますように。仏御自身

に出会うことになる真実道に住していながら未だ済度されていない者たちが済度され、未だ解脱していない者たちが解脱しますように。すべての者が明を持ち〔彼岸に〕赴いて、身と語の果が生じますように。三昧耶の瑜伽の宮殿に今直ちに住しますように。」

〔曼荼羅の撥遣と還着の祈念〕

dkyil 'khor rim bzhin bsdus bya ste // ye shes lha tshogs gshegs su gsol //

dam tshig gsal mnyes bsrung bar bya // gzugs brnyan dben pa'i gnas su gzhag[68] //

Oṃ khyed kyis sems can don kun mdzad // rjes su mthun pa'i dngos grub stsol //

sangs rgyas yul du gshegs nas kyang // slar yang sems can don la dgongs //

Oṃ āḥ hūṃ muḥ vadzra ga ccha muḥ /

曼荼羅を次第通りに集めて、智〔薩埵である〕尊格の集団にお帰り願うべし。三昧耶〔の尊像〕をきれいに擦って、守護すべし。尊像を人けのない処に置くべし。

「オーン、汝が一切衆生の利益を為さって、随応の成就を与えて、仏の境界にお帰りになっても、繰り返し衆生利益をお考えください。」

〈オーン、アーハ、フーン、ムフ、 金剛よ、行け、ムフ。〉

〔儀軌作者の祈願〕

gsang mchod[69] snying po dri ma med // tshogs gnyis gcig tu rab spyod pa[70] //

ye shes bla ma'i rtsal rdzogs don // dpa' bo longs spyod spyad pa'i thabs //

sgrub thabs snga ma'i yan lag tu // cho ga'i dbye ba bkod byas pas //

'gro rnams tshogs gnyis rnam 'phrul nas // rdo rje sems dpa'i gnas thob shig //

「秘密供養の精髄は無垢にして、二資糧を専一によく行じ、智慧〔資糧〕とグルの善巧を完成させるため、勇者の享受を行じる方便である以前の成就法の支分として、儀軌の区分を建立しましたから、有情たちのために二資糧を化作して、金剛薩埵の位を獲得させ給え。」

sangs rgyas thams cad dang mnyam par sbyor ba'i tshogs kyi cho ga zhes bya ba //

slob dpon chen po rgyal po I ndra bhū tis mdzad pa rdzogs so //

rgya gar gyi mkhan po Ā na nda ga rbha dang // zhu che gyi lo tsā ba dran pa nam mkhas bsgyur ba las //

phyis lo tsā ba Lha rin po ches bcos shing gtan la phab pa'o //

〔奥書〕

『一切仏平等和合聚儀軌』と名づけるもの。大阿闍梨にして王なるインドラブーティ様によって作られたものを終る。

インドの規範師アーナンダガルバと大校閲官にして訳経官 Dran pa nam mkha' が翻訳して、後に訳経官 Lha 宝座が校正して決択した。

参照文献

静　春樹　2001「聚輪儀軌における『三者平等の偈頌』」『密教文化』No.207

2003「ガナチャクラと無上瑜伽階梯における〈行〉の体系」『密教文化』No.209

田中公明　1984「『一切仏集会拏吉尼戒網タントラ』とその曼荼羅について」『密教図像』No.3

1989「『一切仏集会拏吉尼戒網瑜伽』所説『九味』考」『東方』No.5

1992「『一切仏集会拏吉尼戒網瑜伽』所説『九味』再考」『印仏研』No.41-1

1997『性と死の密教』春秋社

2000『敦煌 密教と美術』法蔵館

津田真一　1995『和訳 金剛頂経』東京美術

羽田野伯猷　1988「Tāntric Buddhism における人間存在」『チベット・インド学集成第三巻』法蔵館

八田幸雄　1985『真言事典』平河出版社

福田亮成　1974「一切仏平等瑜伽タントラの一考察」『智山学報』No.23.4合併号

森　雅秀　1994「インド密教におけるバリ儀礼」『密教文化研究所紀要』No.8

Poussin, V.　1896 Pañcakrama ÉTUDES ET TEXTES TANTRIQUES

Samdhong Rinpoche　2000 *RAre Buddhist Texts Series 22* India.

注

1 P. rang
2 P. yin
3 P. can gyis
4 P. bsrung
5 筆者には dam tshig tshogs rnams の tshogs の意味が不明である。これが chogs「破られた」のミススペルだとすれば理解される。
6 P. rgyal D. rgyan D. *revised by* P.
7 P. rigs D. rig D. *revised by* P.
8 P. mthong bas D. thob D. *revised by* P.
9 P. *omits* kye
10 P. pa'o
11 P. dpal ldan dpa' bo 'dul bar mdzad
12 P. sa ma ya D. sa ma D. revised by P.
13 P. 'dzin
14 P. brlob
15 P. bgram
16 筆者には rig pa chad dag の意味が不明である。
17 P. khyam
18 P. sogs
19 P. por
20 P. bkod
21 P. bsrung
22 P. dag
23 P. gi
24 P. pa'i
25 P. rlob
26 P. bskol
27 HV. II ch-5 (45) gāḍhāliṅganacumbhanaiḥ これは性瑜伽を表現する定型句の一つである。
28 P. sdom pa D. dam pa D. *revised by* P.
29 P. rings
30 P. gdon
31 P. bya
32 P. bsrungs
33 P. *omits* shin tu
34 P. bskal
35 P. sa ma ya *twice*
36 P. *omits* sa ma ya
37 P. par
38 P. gyis
39 P. 'byam

40　P. na　D. nas　D. *revised by* by P.

41　P. pa

42　P. *omits* lus pa

43　P. bdul

44　P. hūṃ

45　P. *omits* ya

46　P. *adds* kuru

47　「金剛薩埵の百字真言」である。津田真一（1995：204,5）参照。

48　八田幸雄（1985：168）参照。

49　P. bkod

50　P. a ra lli　D. a ra li　D. *revised by* by P.

51　P. a ra lli　D. a ra li　D. *revised by* P.

52　『サマーヨーガ』ch. 9 は、aralli（遊戯）について次のように述べる。

sgyu ma'i gar dbang grub pa ni // a ra li zhes ming du btags //
mkha' 'gro ma yang a ra li // sangs rgyas brda yi phyag rgya'o //
sangs rgyas thams cad mnyam sbyor ba // sgyu ma kun gyi gar byad pa //
sangs rgyas thams cad mnyam sbyor ba'i // mkha' 'gro ma yi dam tshig mchog //
bcom ldan rdo rje sems dpa' dpal // rdo rje a ra li zhes bshad //（186a3-4）

〔荼枳尼〕網の舞踏を仕切る者には「アラリ」と言う名が付けられる。ダーキニーもまたアラリであって、仏の身振りの印契〔女〕である。一切仏平等瑜伽のすべての網（集団）の舞踏者にして、一切仏平等瑜伽のダーキニーの最勝なる三昧耶であり吉祥なる世尊金剛薩埵は金剛アラリと釈説される。

53　P. dbu ma　D. dbu mang　D. *revised by* P.

54　P. 'jig rten

55　P. pa

56　P. bsrungs pa' i

57　『行合集灯』ch.9は、最勝馬について以下のように述べる。

atyantahīnavīryāṇāṃ paramāśvarūpeṇa haṭhayogasamādhinā parākrameṇa hīnavīrya-nigrahaṃ karoti /（*Rare Buddhist Texts Series 22* p.87）

58　P. bha　D. mbha　D. *revised by* P.

59　P. mo

60　P. rgyun

61　P. bsrung zhing　D. srungs shig　D. *revised by* P.

62　P. pa

63　降三世明王の真言には ghana ghana とある。skt $\sqrt{\text{han}}$

64　P. dag

65　P. blangs

66　P. bzhag

67　P. rigs

68 P. bzhag

69 P. mchog

70 P. sbyor ba

〈キーワード〉 サマーヨーガ、ガナチャクラ（聚輪）、『行合集灯』、戯論、インドラブーティ、茶枳尼網